

⑤ 幼児の塾や習い事 —スポーツは5歳から



Benesse 教育研究開発センター 研究員 鈴木尚子

3歳～6歳の幼児の幼稚園や保育所における活動以外の教育活動の状況をみてみましょう。幼児をもつ母親の意識、子どもにかかる教育費、塾や習い事の状況、親子の活動の順番にデータを紹介します。

親の意識—子どもの年齢が上がるにつれ教育熱心な母親が増える—

図5-1～4は子どもの教育に対する母親の意識です。子どもの発達とともに親の教育意識には変化があらわれています。例えば、子どもの年齢が上がるにつれ「学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない」や「子どものことは、子どもの自主性に任せている」といった回答は減ります(図5-1、図5-2)。それに対して「親の教育への熱心さが、子どもの将来を左右する」という回答は増えていきます(図5-3)。

ここからみえるのは、子どもの活動や体験に対するおおらかな意識が後退し、その反対に、教育熱心な母親が増えていくようすです。

教育費—母親の意識は教育費にも反映されている—

図5-5は保育料、塾や習い事などを含めた子ども1人、1か月にかかる教育費です。3歳では半数近くが5千円未満です。ただし、2万円以上も4人に1人います。子どもを園に預けているか否かなどの理由により分かれるようです。分布からは、子どもの年齢とともに教育費がゆるやかに上昇していくようすがわかります。

保育料を含む教育費の平均を年齢ごとにみてみましょう。平均をみると、3歳は16,000円ですが、半数以上が保育所や幼稚園に通い始める4歳では25,300円と1万円近く教育費が増加しています。その後も徐々に増加し、6歳(年長)では約3万円かかるようになります。

図5-6は、保育料を含めない場合の塾や習い事にかけている費用です。3歳4,300円、4歳(年少)5,900円、5歳(年中)8,100円、6歳(年長)10,300円と、年齢が上がるにつれ、塾や習い事にかかる教育費も上がっていきます。

幼児の活動—家庭学習¹⁾は3～4歳、スポーツの習い事は5歳くらいから—

幼児の活動のうち、最も人気があるのは家庭学習活動です。3歳でも約46%、4歳以降では半数以上の子どもが通信教育や市販の参考書・問題集などの家庭学習活動をしています。

スポーツ活動は、幼児期に始めることが多いようですが、具体的に何歳くらいから始めるのでしょうか。図5-7はスポーツ、芸術、学習の活動の活動率を示しています。この図からみますと、芸術活動や、塾などの学習活動はゆるやかに増加していきます。これに対し、スポーツ活動は4歳は29.1%ですが、5歳になると49.3%とおよそ20ポイント増えています。4歳～5歳にかけて、始める子どもが多いようです。

活動ランキング — 人気スポーツはスイミングや体操教室、芸術は楽器やリズム遊び —

幼児期に行うスポーツと芸術活動について、ランキングのかたちでみてみましょう（図5-8～11）。幼児ではスポーツ1位がスイミング（21.2%）で、5人に1人が行っています。2位は体操教室・運動遊び（15.0%）。幼児のスポーツ活動の大半をこの2つのスポーツが占めています。また、体操教室・運動遊びが上位に入ることは幼児の特徴の1つです（図5-8）。「身体を動かすことを楽しむ」や「じょうぶで健康な身体になる」といった、この時期の子どもに対する母親の希望を映し出しているのでしょうか。

芸術活動を見ると楽器の練習・レッスン（11.4%）のほか、音遊び／リズム遊び（9.4%）、リトミック（7.2%）も1割弱。美術系活動よりも音楽系活動が多いようです。音遊び／リズム遊びやリトミックはとくに幼児期に多く行われる活動です（図5-9）。

親子での活動 — 子どもの成長とともに変化 —

図5-12～15は子どもの運動や音楽、芸術活動における親（父親も含む）のかかわりの頻度を示しています。

「子どもといっしょに身体を使った遊びをする」ことが週に1回以上（「週に1回」＋「週に2回以上」、以下同）ある親は、3歳でおよそ6割です（図5-12）。ただし、3歳60.7%→4歳48.8%→5歳45.7%→6歳36.3%と子どもの発達とともに減少します。一方、「子どもとスポーツの話をする」などは年齢とともに頻度が増える活動です（図5-13）。週1回以上の親は3歳17.7%→4歳26.4%→5歳35.5%→6歳38.9%と4歳～5歳にかけて増加するようです。

音楽や美術はどうでしょうか。「子どもといっしょに歌ったり楽器を演奏したりする」は3歳が最も頻度が高く、年齢とともに頻度が減るようです（図5-14）。ただし、3歳では週1回以上が約7割もいる一方で、「ほとんどない」という親子も2割弱います。このほか、「子どもといっしょに家で音楽をきく」も多くの親子は頻度が高い一方で、「ほとんどない」親子も2割を超えます（図5-15）。

親子の活動は、当然ですが子どもの発達とも大きく関係しています。さらに詳しくみてみますと、親子活動はどうやら母親自身の嗜好とも関係しているようです（図表省略）。

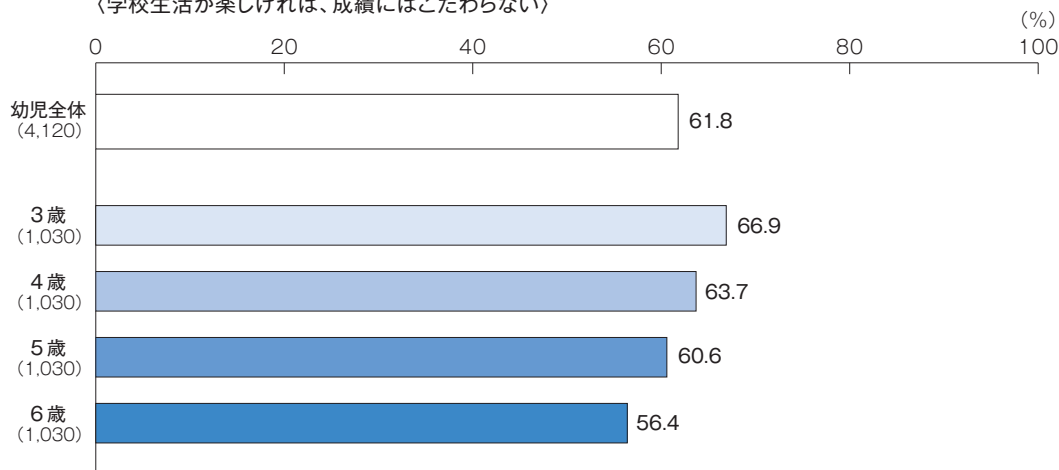
<注>

- 1) この1年間子どもが家庭でしている家庭教師、通信教育、一括購入の教材、市販の参考書・問題集、塾の参考書・問題集、パソコンで配信される教材、パソコン用の学習ソフト、携帯ゲーム機用の学習ソフト、DVDやビデオの映像教材、その他の学習方法・教材。

(1) 親の意識—子どもの年齢が上がるにつれ教育熱心な母親が増える—

図5-1 子どもの教育に対する母親の意識(幼児・年齢別)

〈学校生活を楽しめれば、成績にはこだわらない〉

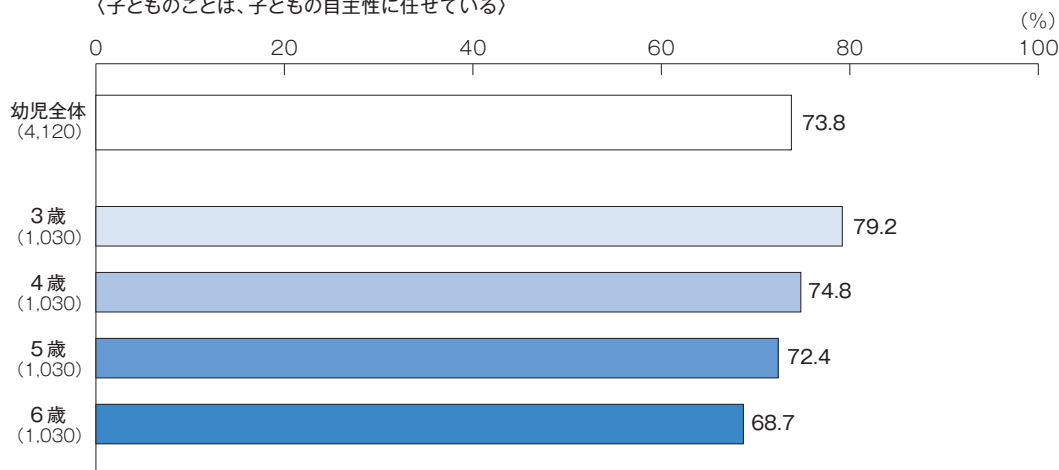


注1 「とても+まあそう思う」の%。

注2 ()内はサンプル数。

図5-2 子どもの教育に対する母親の意識(幼児・年齢別)

〈子どものことは、子どもの自主性に任せている〉



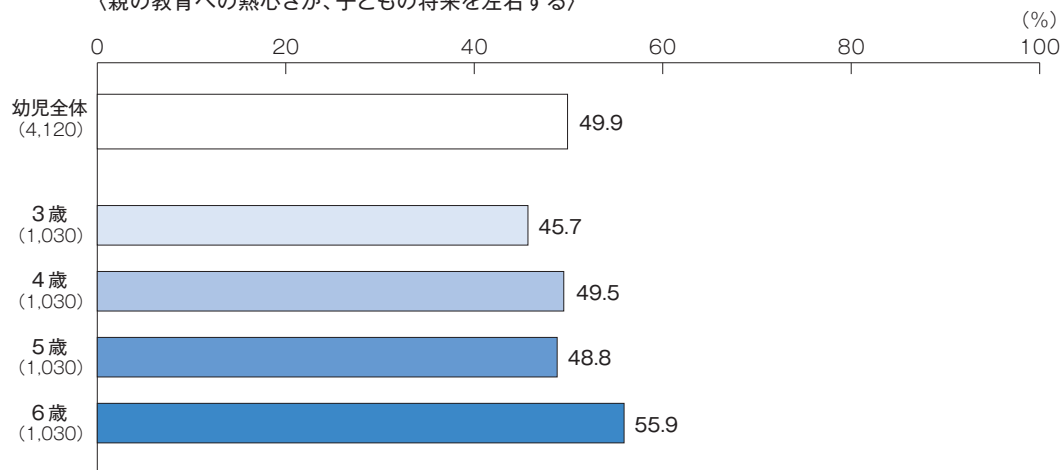
注1 「とても+まあそう思う」の%。

注2 ()内はサンプル数。

3歳から6歳までの幼児の母親の、子どもの教育についての意識を調べました。「学校生活を楽しめれば、成績にはこだわらない」(図5-1)、「子どものことは、子どもの自主性に任せている」(図5-2)の質問に対しては、子どもの年齢が上がるにつれて「とても+まあそう思う」の比率は下がります。子どもが大きくなるにつれて、母親が教育にこだわりやかかわりをもつようになっていくことが読み取れます。それは「親の教育への熱心さが、子どもの将来を左右する」(図5-3)という項目について「とても+まあそう思う」との回答が、3歳児の母親よりも6歳児の母

図5-3 子どもの教育に対する母親の意識(幼児・年齢別)

〈親の教育への熱心さが、子どもの将来を左右する〉

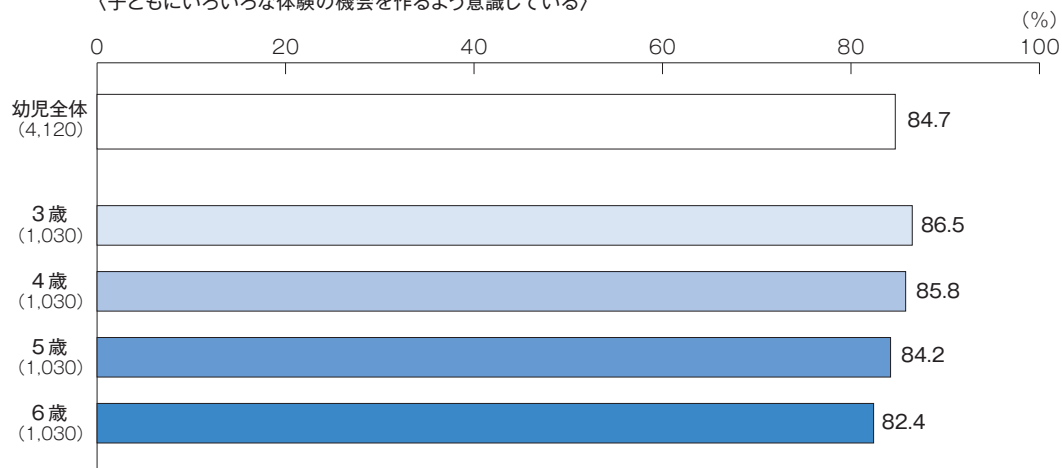


注1 「とても+まあそう思う」の%。

注2 ()内はサンプル数。

図5-4 子どもの教育に対する母親の意識(幼児・年齢別)

〈子どもにいろいろな体験の機会を作るよう意識している〉



注1 「とても+まあそう思う」の%。

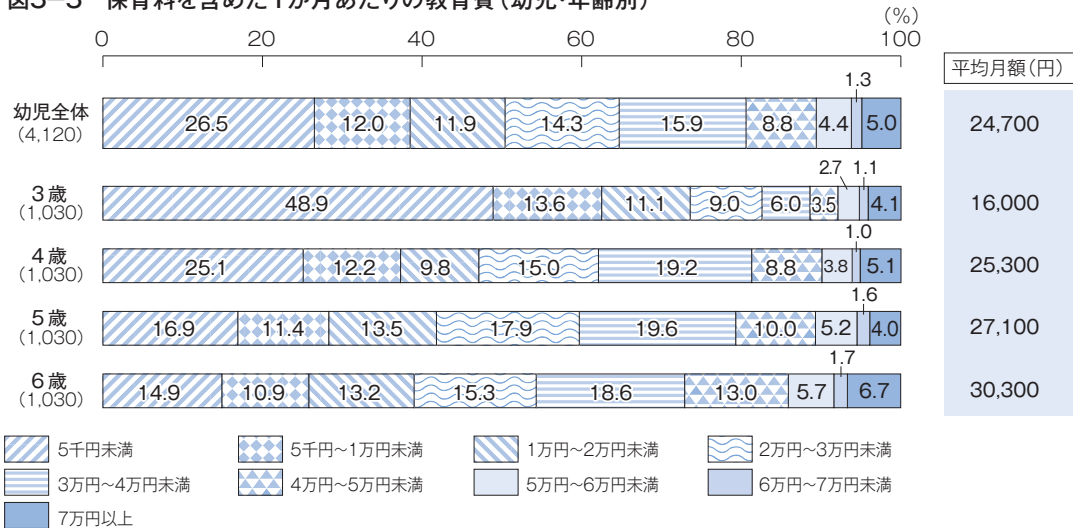
注2 ()内はサンプル数。

親のほうが約10ポイント高くなっていることからわかります。

一方、「子どもにいろいろな体験の機会を作るよう意識している」(図5-4)という親は、逆に年齢が低いほど多くなっており、小さい頃は、勉強よりも、体験を重視して子育てをしているようすがうかがえます。

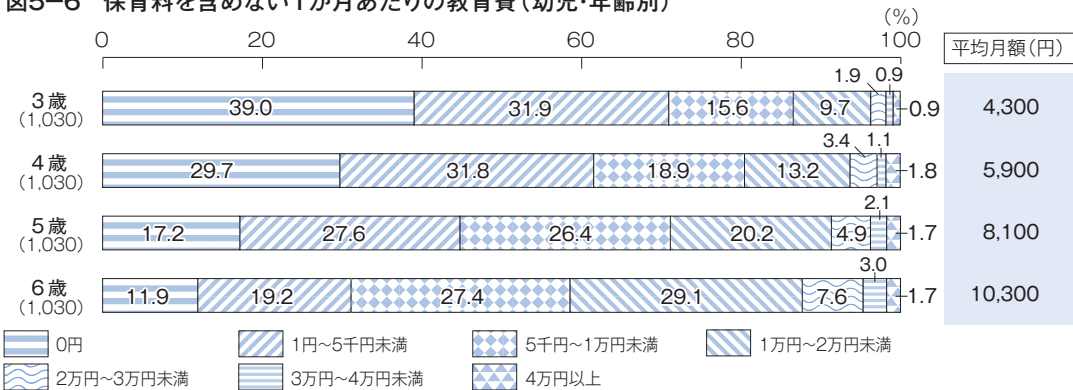
(2) 教育費—母親の意識は教育費にも反映されている—

図5-5 保育料を含めた1か月あたりの教育費(幼児・年齢別)



注1 「この1年間について、お子様1人にかかる教育費は合計すると月にどれくらいになりますか。学校の授業料(幼稚園や保育園の費用)、塾や習い事、教材費などをすべて合計したときの平均月額をお答えください」という設問に対する回答の%。
 注2 平均月額は「5千円未満」を2,500円、「5千円~1万円未満」を7,500円、「8万円~10万円未満」を90,000円、「10万円以上」を110,000円のように置き換えて算出した。
 注3 ()内はサンプル数。

図5-6 保育料を含めない1か月あたりの教育費(幼児・年齢別)



注1 各学校外教育活動にかかる費用を合計して算出した。活動を行っていない場合は0円としている。
 注2 ()内はサンプル数。

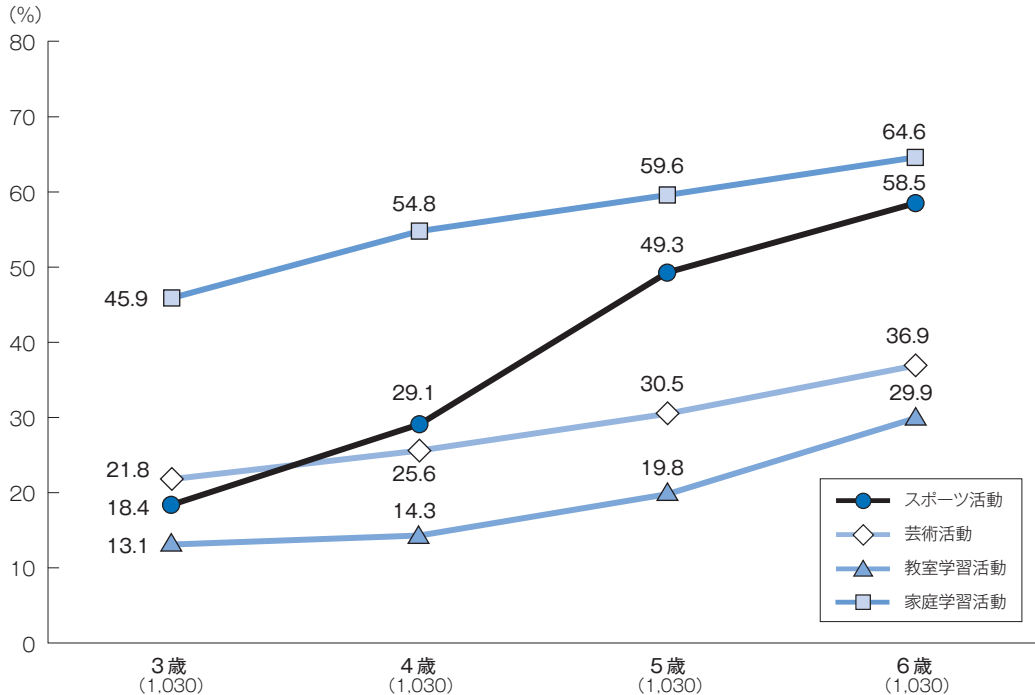
幼児にはどのくらいの教育費がかけられているのかを調べました(図5-5)。保育料を含めた1か月あたりの教育費では、5千円未満の3歳児が48.9%と、3歳児全体の約半分を占めています。そして、4歳からは3万円~4万円未満が3歳よりも約13ポイント増え、大きく増加しています。3年保育の幼稚園や保育所へ入る幼児が多いからと考えられます。

保育料を含めない1か月あたりの教育費では、年齢が上がるにつれて、かける費用が増えています(図5-6)。とくに1万円~2万円未満の層は、3歳が9.7%であるのに対し、6歳が29.1%と、約19ポイントも高くなっています。年齢が進むにしたがって幼稚園や保育所以外の教育や教材に、よりお金をかけていくようすがうかがえます。

(3) 幼児の活動

—家庭学習は3～4歳、スポーツの習い事は5歳くらいから—

図5-7 スポーツ、芸術、学習活動の活動率(幼児・年齢別)



注1 スポーツ活動の活動率は、「この1年間で、お子様が定期的に行っていた運動やスポーツはありますか」という設問に対する「その他のスポーツ」を含む26の選択肢のうち、いずれかを選択した%。

注2 芸術活動の活動率は、「この1年間で、お子様が定期的に行っていた音楽活動や芸術活動はありますか」という設問に対する「その他の音楽・芸術活動」を含む14の選択肢のうち、いずれかを選択した%。

注3 教室学習活動の活動率は、「この1年間で、お子様が定期的に通っている塾・教室はありますか」という設問に対する「その他の塾・教室」を含む15の選択肢のうち、いずれかを選択した%。

注4 家庭学習活動の活動率は、「この1年間で、お子様が家庭で行っている学習方法や使っている教材はありますか」という設問に対する「その他の学習方法・教材」を含む10の選択肢のうち、いずれかを選択した%。

注5 ()内はサンプル数。

3歳から6歳までの幼児は、どのような習い事をしているのでしょうか。スポーツ、芸術、学習について、それぞれの活動率を調べました(図5-7)。

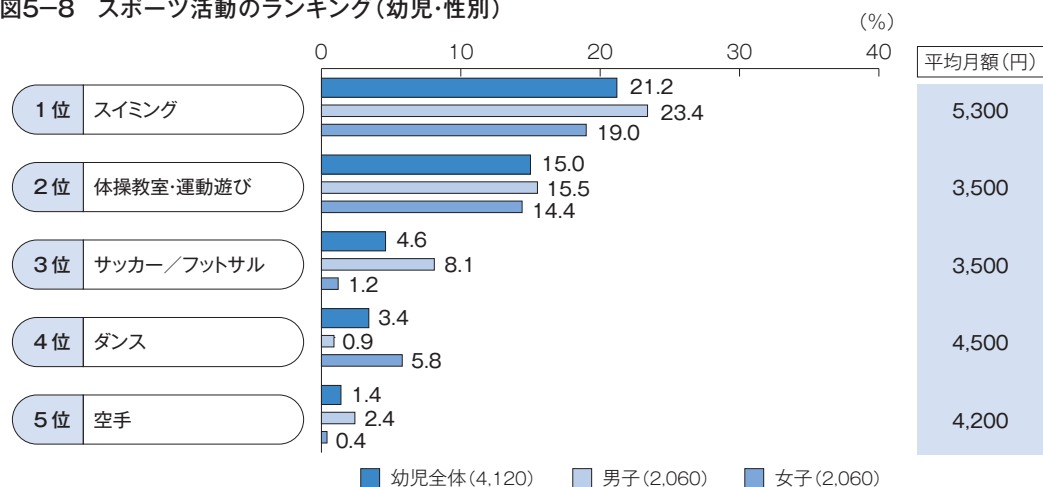
どの年齢層でも一番多いのが家庭学習でした。また、スポーツ活動をみると、4歳は29.1%なのに対し、5歳で49.3%と、約20ポイントも高くなっているのが特徴的です。

いずれの習い事についても、年齢が上がるにしたがってポイントも高くなっており、子どもの成長にともなってこうした活動を始める家庭が多いことがうかがえます。

(4) 活動ランキング

—人気スポーツはスイミングや体操教室、芸術は楽器やリズム遊び—

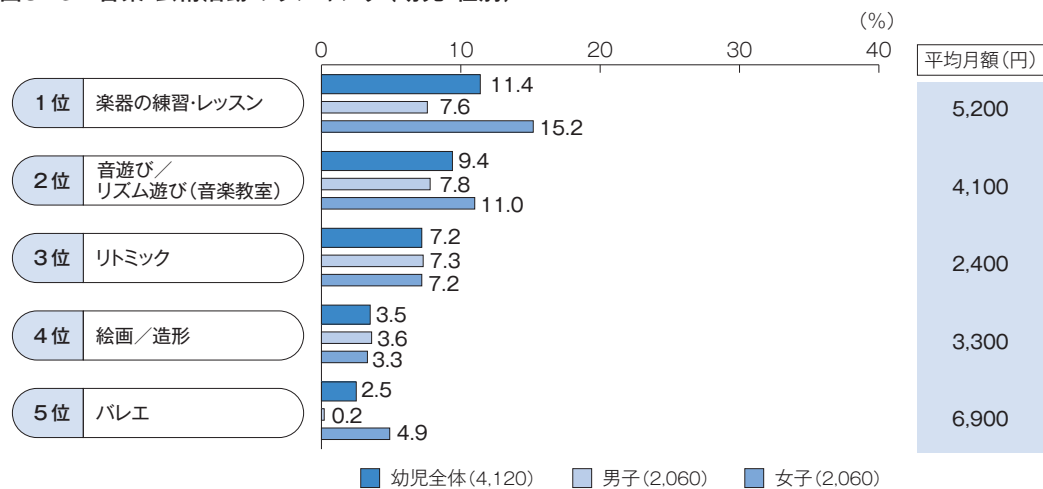
図5-8 スポーツ活動のランキング(幼児・性別)



注1 各活動の平均月額額は、該当の活動をしている人のみ。

注2 ()内はサンプル数。

図5-9 音楽・芸術活動のランキング(幼児・性別)



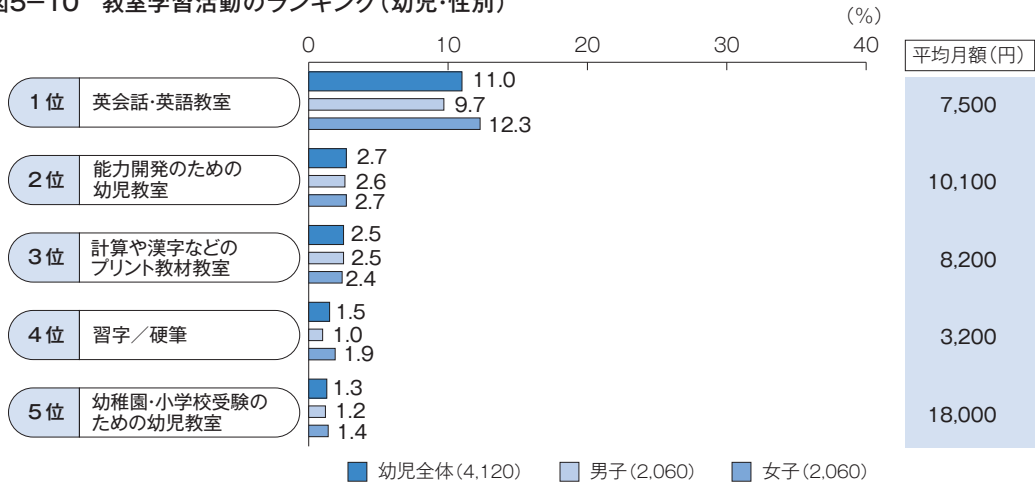
注1 各活動の平均月額額は、該当の活動をしている人のみ。

注2 ()内はサンプル数。

幼児には、どのような習い事に人気があるのかを調べました。スポーツでは1位のスイミングが幼児全体で21.2%と、2位の体操教室・運動遊びよりも約6ポイント高くなっています。サッカー／フットサルは男子が、ダンスは女子のポイントが高くなっており、種目によっては性差が表れているようです(図5-8)。

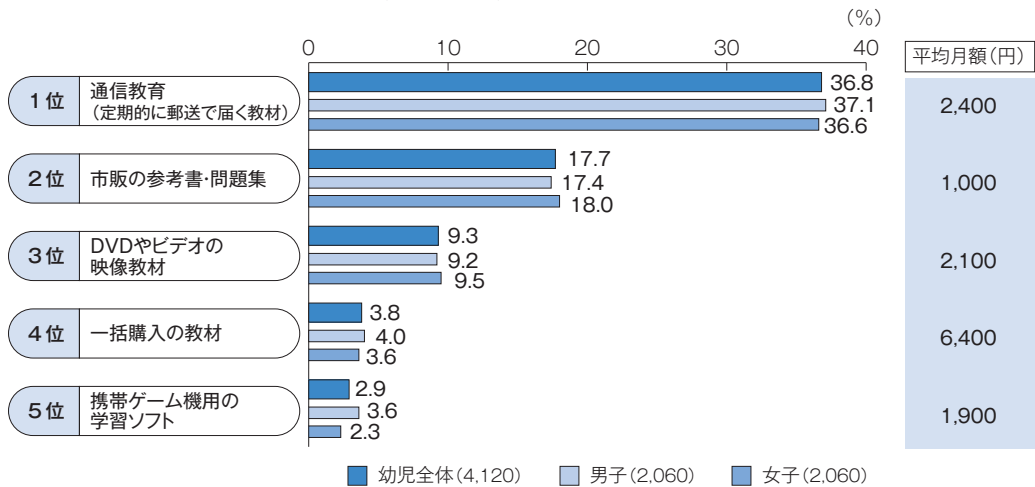
芸術活動については、楽器の練習・レッスン、音遊び／リズム遊びなど、音楽に関する項目では女子の比率が高くなっています(図5-9)。

図5-10 教室学習活動のランキング(幼児・性別)



注1 ()内はサンプル数。

図5-11 家庭学習活動のランキング(幼児・性別)



注1 ()内はサンプル数。

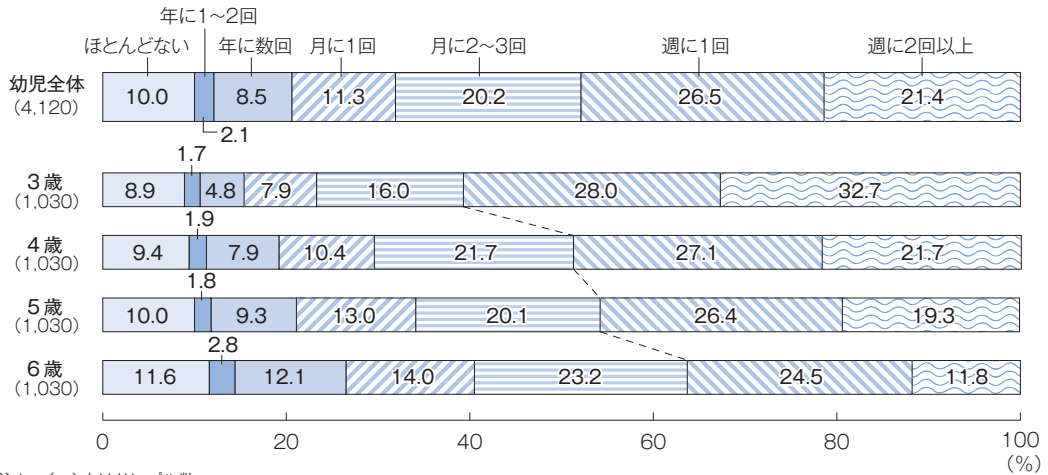
学習活動については、どの項目についても、大きな性差はみられません(図5-10)。英会話・英語教室の比率がほかより高くなっており、幼児全体でほかの1桁の比率の中、2桁台となっています。

家庭学習の教材については、通信教材が1位で、2位の市販の参考書・問題集の約2倍の比率です(図5-11)。学齢期ではない幼児にも通信教材が多く利用されていることがわかりました。

(5) 親子での活動 —子どもの成長とともに変化—

図5-12 スポーツ活動における親子のかかわりの頻度(幼児・年齢別)

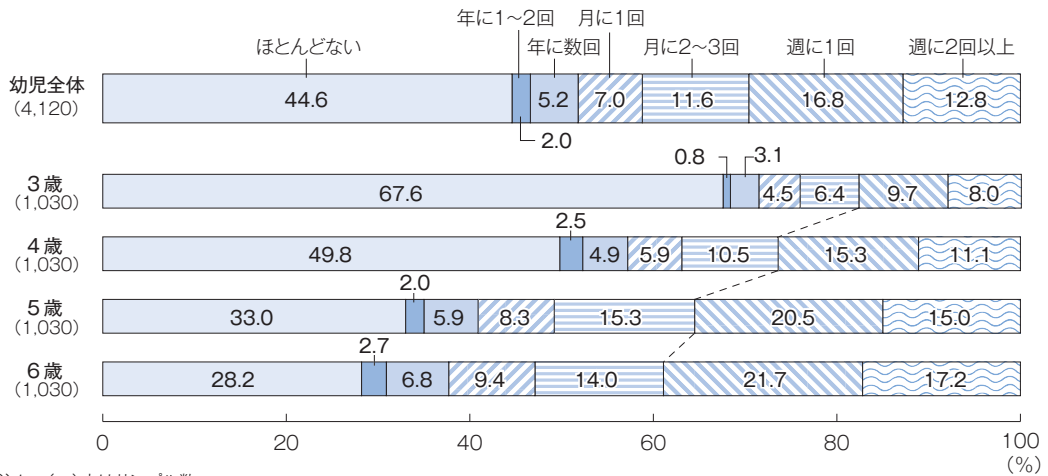
〈子どもといっしょに身体を使った遊びをする〉



注1 ()内はサンプル数。

図5-13 スポーツ活動における親子のかかわりの頻度(幼児・年齢別)

〈子どもとスポーツの話をする〉

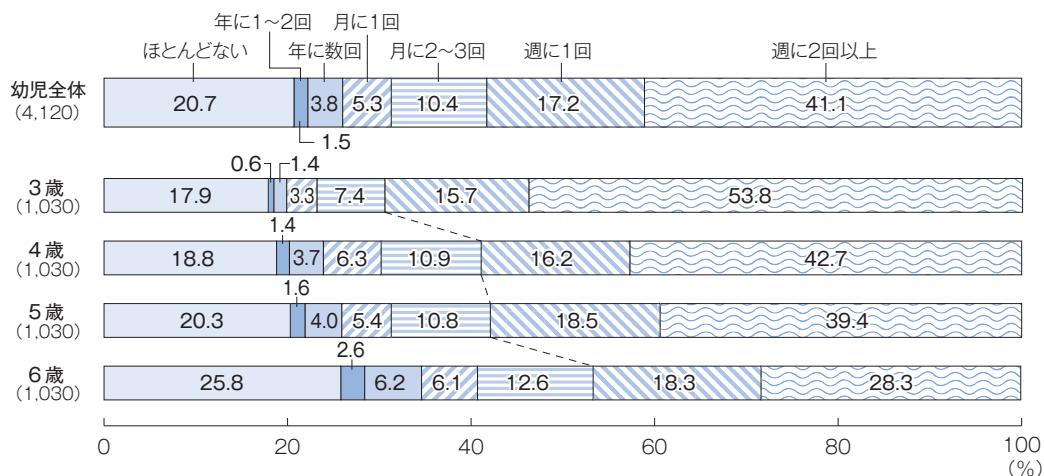


注1 ()内はサンプル数。

子どものスポーツや音楽、芸術活動に親(父親も含む)はどれだけかかわっているのでしょうか。「子どもといっしょに身体を使った遊びをする」は、年齢が低いほど、週1回以上の比率が高くなっており、3歳は60.7ポイント、6歳は36.3ポイントです(図5-12)。逆に「子どもとスポーツの話をする」では、年齢が上がるほど、週2回以上の比率が高くなっています(図5-13)。

図5-14 音楽、芸術活動における親子のかかわりの頻度（幼児・年齢別）

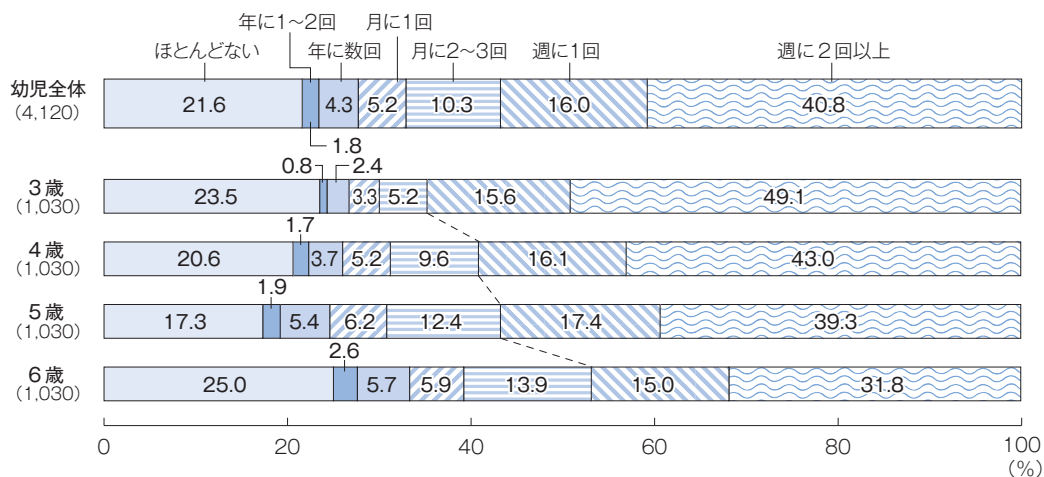
〈子どもといっしょに歌ったり楽器を演奏したりする〉



注1 ()内はサンプル数。

図5-15 音楽、芸術活動における親子のかかわりの頻度（幼児・年齢別）

〈子どもといっしょに家で音楽をきく〉



注1 ()内はサンプル数。

一方、音楽、芸術活動については、「子どもといっしょに歌ったり楽器を演奏したりする」（図5-14）、「子どもといっしょに家で音楽をきく」（図5-15）のどちらも、年齢が上がるにつれて週1回以上いっしょにしている親子は減るものの、全体に占める比率は高いことがみてとれます。

いずれの調査結果からも、幼児の親が子どもの教育に興味をもち、とくに年齢が上がるにしたがって、積極的にかかわろうとしている姿が浮かびあがります。